



〈雑録〉獨逸加里工業ニ於ケル「カルテル」ノ發達(2)

松崎, 壽

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 16(5):855-877

(Issue Date)

1914-05

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00052211>



獨逸加里工業ニ於ケル「カルテル」ノ發達（其二）

商學士 松 崎 壽

五

前項述べタルガ如キ曲折ヲ經テ第四次「シンデケート」ハ終ニ成立シ、千九百四年八月十一日有限責任加里「シンデケート」(Kalisyndikat, G. m. b. H.)ナル名稱ノ下ニベルンブルグニ於テ法定ノ登記ヲ經タリ。而シテ該共同販賣所ノ組織ニ四十萬馬克ノ資本(拂込濟)ヲ有スル有限責任會社ニシテ其持分ハ各加盟者ノ有スル所ナリキ。總テ加里生産物ハ之ヲ五種ノ等級ニ區別シテ加盟者ノ單獨販賣ヲ許サルノミナラズ、尙「シンデケート」自身ノ取扱タル實ヲ知ラシメン爲メ、一切特殊ノ商標ヲ用フルコトヲモ嚴禁セリ。要スルニ斯ル組織ヲ採用シタルハ明カニ一ツノ進歩ニシテ從來ヨリ基礎ノ鞏固ヲ加ヘタルモノト云フベシ。

「シンデケート」ノ管理ハ(一)總會(Generalversammlung) (二)監事會(Aufsichtsrat) 及ビ(三)執行機關(Syndikatsvorstand)ノ三者ニ分掌セラレ、總會ハ各礦山ヨリノ代表者ヲ以テ組織シ其權限ハ八名ノ監事ヲ選出シ、販賣條件並ニ配當額等ヲ決定シ、又或範圍内ニ於テ定款ヲ改正スルヲ得ル等是ナリ。但シ或種類ノ價格ヲ變更スルコト及ビ普魯西商務大臣ノ承認ヲ要スベキ事項ノ改廢ハ特ニ政府代表委員ノ同意ヲ得ルヲ要シタリキ。又監事會ハ直接業務執行ノ局ニ當ル理事ヲ選舉シテ之ヲ監

督スルノ權限ヲ有シ、其內監事長ノミハ普魯西商務大臣ノ選任ニ係レリ。執行機關ハ理事長一名ト其下ニ副理事長三名アリテ夫々三課ヲ分掌ス、三課トハ中央課、農業課及ビ營業課ニシテ營業課ハ又(一)礦石部(二)製品部(三)米國輸出部(四)運輸部ノ四部ニ分レタリ。理事ハ毎年監事會ノ承認ヲ得テ價格ヲ決定スルノ任ニ當リシガ、其評價法ハ十二・四「パーセント」ノ加里ヲ含有セル「カイニツト」石ヲ標準トシテ、夫々含有分量ニヨリテ之ヲ定メタリ。但シ右ノ標準價格ヲ引上グル場合ニハ普魯西商務大臣ノ認許ヲ受クルヲ要シ、又從來ノ如ク獨逸內地ノ農業用ニ充ツル加里ノ市價ヲ指定スルノ權ハ依然同大臣ノ保留スル所ナリキ。此外紛議ヲ調定スル機關トシテ裁定委員會ヲ設ケ、或ハ契約違反ノ制裁トシテ三十萬馬克乃至百萬馬克ノ罰金ヲ課スルヲ得ルコト、シ、又各礦山ハ契約履行ノ保證トシテ三十萬馬克ノ信託金ヲ「シンデケート」ニ供託スベキ旨ヲ定メタリ。然レドモ第四次「シンデケート」協約ノ最モ大ナル缺點ハ新加盟者ヲ許可スベキヤ否ヤニ關シテ何等ノ條項ヲモ約定セザリシコト是ナリ。惟フニ斯ル重要ナル問題ヲ等閑ニ附シタルハ全ク聯合ノ崩壞ヲ懸念シタルニ由ルナルベシト雖モ、此不備ガ後來絶エズ紛擾ヲ惹起スルノ原因トナリタルハ否定スベカラザル事實ナリトス。

斯クテ「シンデケート」ノ成立後一時加里業界ノ鎮靜ヲ看タレドモ幾許モナク新礦山ノ加入問題、新舊礦山間ノ軋轢等續出シテ聯合自身モ破綻ニ瀕シタルコト一再ナラズ、殊ニ新礦山ハ多額ノ割當ヲ得ンガ爲ニ、極度ニ價格ヲ引下グベシト威嚇シ、或ハ實際之ヲ實行スルモノサヘアリシカバ「シ

ンデケート」ハ已ムヲ得ズ各割當額ヲ漸次減少スルニ至レリ。此事實ハ千九百年以來一礦山ニ對スル平均產出高ノ減少ノ明カニ示ス所ニシテ、即チ千九百年ヨリ千九百八年ニ至ル間ニ一礦山ノ平均產出額ハ數量ニ於テ四割一分五厘、價格ニ於テ四割七分八厘ノ減退ヲ來セリ。

註 今該期間内ニ於ケル產出高並ニ其價格ノ絕對數ヲ示セバ次ノ如シ。

年次	產出高 セントナル	總價格 馬克	礦山數	一礦山平均產出高 セントナル	同上平均價格 馬克
一九〇〇	三〇〇四	五六・二	一五	二〇二、四〇七	三、七四八、六八八
一九〇一	三〇四三	五九・一	一九	一八〇、六〇四	三、一一二、〇二七
一九〇二	三・二九	五六・九	二四	一三七、〇五七	二、三七〇、三七九
一九〇三	三・六六	六四・一	二八	一三〇、八六五	二、二八九、六〇二
一九〇四	四・三〇	七四・一	二八	一五三、六二一	二、六四五、六三四
一九〇五	四・八三	八一・六	三二	一五一、〇二一	二、五五一、三三六
一九〇六	五・四八	九一・七	三六	一五二、〇九三	二、五四六、七七七
一九〇七	五・五八	九三・四	四一	一三六、〇九二	二、二七八、五八七
一九〇八	五・九二	九七・八	五〇	一一八、三一五	一、九五六、二六四

千九百五年ニ入り財界ノ好況ニ赴クト共ニ投機熱ノ勃興ハ加里業界ニモ侵入シテ新事業ノ増設ヲ促シタリ、而シテ此趨勢ハ同年自由保守黨員ガムブノ提案ニヨリ普魯西議會ヲ通過シタル「ガムブ法」(Gump Gesetz)ノ發布アリシニモ拘ハラズ殆ンド影響ヲ享ケザリシモノ、如シ。蓋シ此法律ハ明カニ新企業ノ計畫ヲ阻止スルニ在リテ、即チ向フ二箇年間普國礦業法ノ施行セラル、地域ニ於テハ私

人ノ探掘權ヲ得ントスル出願ヲ許可セザルコト、定メタルナリ。然レドモ當時「ハノーバー法」ニテハ尙舊ニ因リ總テノ探掘權ハ普魯西ニ於ケル如ク礦區發見者ニ歸セズシテ土地所有者ニ屬シタルヲ以テ、普國礦業法ハハノーバー領ニ適用セラル、ニ至ラズ、從ツテ「ガムプ法」ノ結果ハ假令普魯西領内ニテ多少ノ新企業ヲ抑止シ得タリトスルモハノーバー其他ノ諸州ニ在リテハ却テ加里探掘熱ノ横溢ヲ來シ、所謂加里投機ノ流行ヲ促スノ端ヲ啓キ、探掘權ノ賣買、土地ノ貸借等旺ンニ行ハレタリ。加之「ガムプ法」ハ既得ノ探掘權ニハ何等ノ效力ヲ及ボサバリシガ故ニ、普國自身ニ於テモ豫期ノ效果ヲ收ムルヲ得ズ、投機業者等ハ巧ニ法網ヲ免ル、ガ爲メ已ニ久シク死没セル探掘權ヲ購入シテ之ヲ再興スルノ手段ヲ採リシカバ、千九百一十二年頃不景氣ノ結果一時廢滅セル企業ニシテ再ビ投機ノ目的トナルニ至リシモノ尠ナカラズト云フ。

前ニモ一言シタル如ク第四次「シンデケート」ノ存續中常ニ波亂ノ衝點トナリシハ新礦山ノ加盟問題ナルガ其内最モ重大ナル影響ヲ及ボシ、殊ニ後年國際問題迄モ惹起シタルモノハアツシエルスレーベンノ監事長タルシュミットマン(H. Schmidtmann)ノ所有ニ係ルゾルステットノ礦山ナリトス同礦山ハ千九百五年事業ヲ開始シタルモ、其加入條件ガ「シンデケート」ノ容ル、所トナラザリシヨリ、シュミットマンハ直ニ米國ノ加里購買者ト關係ヲ結ビ、次デ六十五箇ノ會社ヨリ成レル個人肥料製造業者組合ト廉價販賣ノ契約ヲ締結シテ毎年五萬噸ノ純加里ヲ供給スルコト、ナセリ、茲ニ於テカシユミットマンノ行動ハ世論攻撃ノ中心トナリ、彼ハ獨逸國民ノ福利ヲ犠牲ニシテ外國人ノ爲

ニ天恵ノ富源ヲ蕩盡スル者ナリト非難セラレタリ。而シテ斯ル單獨販賣ノ結果ハ「シンデケート」ノ政策ニ打撃ヲ與フルコト甚ダシカリシカバ、「シンデケート」ハ屢々妥協ノ條件ヲ提出シテシユミットマンノ加入ヲ求メシモ、議容易ニ就ルベクモ見エザリシガ漸ク千九百七年ニ及ビ、諸種ノ事情ハ其加盟ヲ餘義莫クセシメ終ニ該問題モ一段落トナルニ至レリ。是ヨリ先獨逸加里業會社（*Deutsche Kaliwerke*）ト「シンデケート」トノ關係モ亦險惡ノ狀ヲ呈セシガ、ゾルステット問題ノ解決スルト共ニ相前後シテ事ナク落着シ、其他ロツスレーベン（*Rosslieben*）及ビロンテンブルグ（*Ronnenburg*）ノ兩礦山ハ千九百六年特種ノ割當額ヲ協定シテ聯合ニ加入シ、次デメクレンブルグ政府ノ大株主タリシフリードリッヒ、フランツ加里業會社（*Kaliwerk Friedrich Franz*）モ「シンデケート」ノ一員トナリ、又普魯西官營礦山ハヘルチニア礦山ヲ買收シテ一層基礎ノ鞏固ヲ圖レリ。カクテ新礦山ノ團體ハ漸次其勢力ヲ擴張シテ千九百六年十一月ノ總會ニ於テハ監事ノ過半ヲ選出スルニ至リシカバ、彼等ハ其勢力ヲ利用シテ「シンデケート」ノ經營ニ容喙シ、種々ノ改革ヲ試ミタリト云フ。

越エテ千九百八年ニ入り有力ナル農業者ノ團體ガ別ニ加里礦山ヲ建設スルノ目的ヲ以テ、宏大ナル礦區ヲ買收シタルノ一事ハ大ニ舊礦山ヲ驚愕セシメタルモノ、如シ。然レドモ從來「シンデケート」ハ農業者團體ニ對シテハ常ニ親善ナル關係ヲ維持シ且之ニ多クノ恩恵ヲ與ヘタルヲ以テ、然ルニモ拘ハラズ農業者ガ桔抗ノ態度ニ出ヅベシトハ蓋シ想像スル能ハザル所ナリ。要スルニ多少ノ波亂ハ免レザリシモ、「シンデケート」ハ益々其範圍ヲ擴張シテ非加盟者ヲ誘致スルニ成功シ、千九百

八年末ニハ現ニ探掘中ノ礦山四十九アリシガ(當時試掘中ノモノハ六十五ヲ算セリ)何レモ加盟者タラザルハ莫カリキ。尙此期間内ニ現ハレタル著シキ現象ハ、新舊礦山ヲ通ジテ多額ノ割當ヲ得ル爲メ、表面上獨立ノ關係ヲ有セル從屬會社ヲ設立シタルコト是ナリ。

元來加里工業ノ缺點ハ事業其モノ、危險ナルト、比較的多額ノ建設費ヲ要スルコトノ二點ニ在リ前者ハ坑内ノ浸水ニシテ鹽類ヲ溶解シ去リテ廢物トナスノ虞アルガ故ニ、最モ注意スベキコトニ屬ス。後者ハ試掘ノ爲メ堅坑ヲ穿ツノ費用ノミニテ一萬五千弗乃至二萬五千弗ヲ要スト言ヘバ、略ボ其一般ヲ窺フヲ得ベク從ツテ資本額ノ一般ニ大ナリシハ論ヲ俟タズ。例ヘバ千九百六年ニ於ケル二十箇ノ礦山ノ公稱資本額ヲ看ルニ何レモ四十萬弗ヲ超過シ、平均百萬弗ニ及ベル程ナリ。然レドモ是等ノ些少ナル障害ハ毫モ加里工業ノ發展ヲ阻止スルニ足ラズシテ、實際ニ於テハ產額激增シ、益益長足ノ進歩ヲ來セリ。惟フニ斯ル所以ハ全ク次ノ如キ特殊ノ理由アリシニ因ルモノト云フベシ。

一、政府ガ直接該工業ニ關與シテ種々ノ便宜ヲ與ヘルコト

二、國內ノ財源ヲ開拓シテ之ヲ獨逸人ノ獨占ニ歸セシメントスルノ愛國心ニ驅ラレタルコト

三、企業ノ利潤一般ニ莫大ナリシコト

今右ノ各々ニ就テ詳說スルノ暇アラザルヲ以テ、(二)ノ點ニ關シテ一言センニ、ビンナーノ調査ニ據レバ、平年タル千九百六年ニ於テ二十一箇ノ礦山ノ平均利潤ハ一割五分九厘ニ達シ其平均配當ハ一割三分五厘ニ當リシモ爾後二箇年間ニ礦山數ノ増加ト平均產出高ノ減少セル結果平均配當ハ九

分五厘ニ減退スルニ至レリト云フ。而カモ其振ハザル千九百八年ニ於テスラ、加里鹽ノ生産費ハ充分ノ減價償却ヲ爲スモ尙賣價ノ四割乃至六割ニ過ギザリシトノコトナレバ、其純益ノ割合ハ遙ニ他ノ礦業ニ優レルモノアリシヤ明カナリ。

尙事ノ序ヲ以テ此期間以後ニ現ハレタル法令ノ結果ヲ略説スベシ。千九百五年ノ「ガムプ法」ガ實際上ノ效力甚ダ薄弱ナリシコトハ已ニ述ベタルガ、元來此法案ノ主タル目的ハ礦區ヲ個人企業者ノ掌中ヨリ奪フニアリキ。サレド之ニ對スル既設會社ノ反對甚ダシカリシ爲メ、終ニ既得ノ採掘權ニ其效力ヲ及ボサルコト、爲シテ、成案トナレルガ其結果ハ既得權ノ價值ヲ著シク騰貴セシメテ、或礦山ハ圖ラズモ漁夫ノ利ヲ占ムルノ奇觀ヲ呈シタリ。彼ノエルケレンツニ於ケル國際採掘會社（資本金百萬馬克）ノ如キハ宏汎ナル礦區ヲ買收シ置キ、法律發布後幾許モナク之ヲ三千五百萬馬克ノ巨額ニ賣却スルヲ得タル程ナリ。「ガムプ法」ハ千九百七年七月ニ至リ新礦業法ニヨリテ更改セラレタレドモ、其條項ハ依然存續シタルモノニシテ唯舊法ノ附則ヲ擴張シタルニ止マレリ。次ニ注意スベキハ千九百十年普魯西商務大臣ノ發シタル二堅坑主義（Zwei Schächte System）ノ命令ニシテ、各礦山ハ少クトモ二箇ノ連絡セル坑道ヲ穿タザルヲ得ザルコト、ナリシカバ、其結果ハ多クノ礦山ニ大ナル打撃ヲ與ヘタリ。然レドモ該命令ハ坑道ノ連續セル數礦山ヲ合併シテ指定ノ要件ヲ充スコトヲ許セルガ故ニ、此方法ハ或會社ノ採用スル所トナリ、又大礦山ノ内ニハ第二ノ堅坑ヲ掘リ特ニ其レヲ管理スルガ爲ニ從屬會社ヲ設立スルモノ少ナカラズシテ、是等ノ新會社ガ「シンデケート」ニ對シ

テ獨立ノ割當額ヲ要求スルニ至レリ。即チ此方針ヲ採リシハ、ブルバツハ、ウエステレゲルン、グリュツカウフ、ゾンデルシャウゼン (Glückauf-Soredshausen) アッシェルスレーベン、新スタツスフルト及ビロツスレーベン等ノ諸礦山ナリキ。

六

第四次「シンデケート」ハ千九百九年六月三十日ヲ以テ滿期トナルノ豫定ナリシガ、契約更新ノ協議ハ已ニ前年ヨリ開始セラレタリ。即チ千九百八年一月ノ總會ニ於テ監事ハ同年五月一日迄ニ新協約ノ草案ヲ提出スベキコトヲ各礦山ニ指令セリ。然レドモ礦山數ノ増加ニ連レ、割當額ノ決定ハ益益煩雜ヲ極ムベキガ故ニ、「シンデケート」ノ繼續ノ甚ダ困難ナラントハ一般ノ想像スル所ナリキ。尤モ加盟者ノ内ニハ早クモ割當額ノ減少ヲ豫防スルノ策トシテ、從屬會社ノ規模ヲ擴張シ之ニ礦區ヲ分與スルノ仕段ヲ企ツルモノアリ、例ヘバグリュツカウフ、ゾンデルシャウゼン礦山ガ六箇ノ從屬會社ニ礦區ヲ分割スルノ計畫ヲ發表シタルガ如キ是ナリ。斯クテ監事會ハ草案ノ提出ニ先チ各礦山ノ改革ニ關スル意見ヲ徴シタルガ、其提案ハ區々ニシテ異論百出ノ有様ナリキ。今其内重モナルモノヲ舉ゲンニ、其一ハノーバー礦山ノ一團ヨリ出セル提案ニシテ、從來ノ組織ニ於テハ監事會ノ事務餘リニ煩多ナレバ、新ニ評議員會 (Beirat) ヲ設ケテ其一部ヲ之ニ遷スコト、シ、且新「シンデケート」ノ存續期間ヲ十箇年トシテ加盟ノ認許ハ總テ裁定委員會ノ手ニ委スルコト、定メ、又或制限ノ下ニ一ツノ礦山ヨリ他ノ礦山ヘ割當額ヲ讓渡スルコトヲ自由ト爲シタル等はナリ。此提議ハ

多クノ賛同ヲ得ル能ハザリシノミナラズ、特ニ割當額ノ讓渡ハ却テ加里工業ヲ獎勵スル所以ニ非ズトシテ、官營礦山ノ反對スル所トナレリ。其二ハ各礦山ノ割當額ハ未採掘ノ礦區ニ對シテモ賦與セラルベキモノナリトノ提案ナリシガ、斯ル標準ノ採用ハ從來ノ割當參加表ヲ根本的ニ改廢セザルヲ得ザルコト、ナリ、實行ノ困難ナル多言ヲ要セズシテ明カナリ。

上述ノ如ク千九百八年ノ前半ハ準備の行爲ノ爲ニ屢々監事會ノ開催ヲ見、先ヅ可及的困難ナル問題ノ解決ニ努メタルガ、此間ニ在リテモ普魯西政府ハ常ニ「シンデケート」ノ繼續ヲ遂行セザルベカラズトノ意見ヲ宣言シ、以テ時局ノ收拾ニ盡シタリ。斯クテ新「シンデケート」協約ノ統一の草案ハ漸ク七月ニ入りアイゼナツハニ開カレタル監事會ニ於テ評議セラル、ノ運ビトナレリ。今其條項ヲ看ルニ「シンデケート」ノ權限ハ加里ノ賣買ヨリ礦區ノ所有其他一切ノ事項ニ及ビ、又加里生產物ハ化學的成分ニヨリテ各種ノ等級ニ區分セラレ、而シテ監事會ヲ補助スル爲メ別ニ評議員會ヲ設ケ、尙聯合本部ハ之ヲスタツスフルトヨリ伯林ニ遷ス等ノ規約存シタリ。最後ニ舉ゲタル本部移轉ノ議ハ新礦山ノ主張セル所ニシテ、其理由ハ「シンデケート」ト商務大臣トノ關係ヲ一層密接ナラシメ、且之ニヨリテ容易ニ有力ナル農業者ノ團體ニ接近スルヲ得ベシト云フニアリキ。尙重要ナル條項ハ同一會社ノ支配ニ屬セル場合ニ限り、一礦山ヨリ他礦山ニ割當額ヲ讓渡スルハ自由ナリト認メラレタルコト是ナリ。

右ノ草案ハ比較的整ヘルモノナリシニモ拘ハラズ、終ニ全員ノ承認ヲ得ル能ハザリシカバ、最早

短日月内ニ協約ノ更新ヲ成就シ得ベキ望ハ全ク絶エ、紛々タル論争ノ内ニ千九百八年ノ後半ヲ空過スルノ止ム莫キニ至レリ。當時舊礦山ノ一ナルサルツデットフルトノ (Salzdetfurth) 社長ウエツヘラーノ所論ハ最モ傾聽ニ價スルモノ、一ナリキ。即チ氏ハ「シンデケート」ノ組織ハ過剰生産ヲ除クモノニアラザルコトヲ指摘シ、自由競争コソ自然的ノ極メテ有效ナル救治策ニシテ、基礎ノ薄弱ナル會社ノ淘汰ハ却テ工業ノ根柢ヲ鞏固ニスルモノナリト論ジタリ。然レドモ此見解ニ反對スル論者亦莫キニ非ズ、其唱フル所ニ從ヘバ礦業者ノ過剰ハ「シンデケート」ノ存在スル結果ニアラズシテ、立法ノ不備ナルニ在リ、然ルニ若シ自由競争ニ倚リテ價格ヲ暴落セシメタリトセバ、獨占的利益ハ之ヲ需ムルニ由ナク、資本家ハ又立ツ能ハザルニ至ルベシト。

千九百九年一月ノ總會ハ他ノ枝葉ナル巨細ノ問題ト共ニ、最モ困難ナリト信ゼラル、割當額ノ決定ヲ議スルコト、ナレリ。當時有力ナル主張ト認メラレタルハ(一)新割當額ハ舊割當參加表ヲ基トシテ協定スベキコト(二)新礦山ニ對スル割當額ハ舊礦山ノ額ヨリ一率ニ一割ヲ減ズベキコト(三)餘剩アラバ各割當額ニ比例シテ之ヲ分配スベキコト等ノ諸點ナリシガ、此考案ハ終ニ通過スルニ至ラズ、依ツテ該問題ヲ別ニ組織セル委員會ノ手ニ遷シ、更ニ割當額ヲ調製シテ再ビ總會ニ提出シタルモ、又一般ノ同意ヲ得ル能ハザリキ。

斯クノ如ク決議ノ不調ニ因リ、「シンデケート」ノ解散ヲ看ルベキコトハ殆ンド疑ナキ事實トナリシカバ、兼テ其繼續ヲ好マザル米國ノ加里購買者ハ機乗ズベシトナシ大ニ内密ノ運動ヲ圖ルニ至レ

リ。茲ニ於テカ米人侵入ノ風説ハ獨逸ニ傳ハリ流言蜚語上下ニ普テク、「本國ノ富源カ米國ノ富源カ」(Vaterländische oder Amerikanische Bodenschätze?)ト云フガ如キ數種ノ書物サヘ出デタル程ナリ。然レドモ實際ニ於テハバーヂニア、カロライナ會社ガアイニヒカイト礦山ノ總株式一千株ノ中七百二株ヲ獨占シテ同礦山ヲ支配シタル以外ニハ未ダ何事モ起ラザリシガ、幾許モナクゾルステツト竝ニアツシエルスレーベンノ大株主タルシュミットマン父子ノ行動ニヨリ、杞憂ハ果然事實トナリテ現ハレタリ。蓋シシュミットマンハ久シク「シンデケート」ノ管理ニ慊焉タラズシテ、竊ニ獨立ノ活動ヲ希望セシガ、殊ニ千九百五六年ノ頃一度單獨販賣ヲ試ミテ充分ニ亞米利加貿易ノ甘味ヲ嘗メ、其極メテ有利ナルコトヲ熟知セルガ故ニ、折アラバ米國ノ加里商ト提携シテ大規模ノ販賣機關ヲ組織シ、之ニ倚リテ廉價供給ヲ開始セント圖リ居タリシナリ。サレバ已ニ千九百八年ノ秋ヴエーシュミットマン(ハー、シュミットマンノ子ナリ)ハバルチモアノメドース(C. E. Meadows)ト共ニ獨立肥料會社(Independent Fertilizer Co.)ヲ組織セント企テシモ失敗ニ了リ、更ニ翌年四月ニ至リ創立ノ許可ヲ得タル合衆國農業會社(U. S. Agricultural Co.)ニ個人肥料業者ヲ加入セシメント計畫セシモ、亦事ハ畫餅ニ歸シタルガ、終ニ第三回ノ企圖ハ首尾克ク成效セリ、即チ「シンデケート」ノ解散期タル六月三十日ノ深更ヨリ翌七月一日ニ亘リテヴエー、シュミットマンヲ社長トシ、メドースヲ理事長トナセル國際農業會社ノ設立成リ、同會社ハゾルステツト等ヨリ廉價供給ヲ受ケタル加里ヲ更ニ米國市場ニ廉賣スルコト、ナレリ。要スルニシュミットマンハ「シンデケート」協約ノ混

亂ニ乘ジテ獨リ漁夫ノ利ヲ占メ得タルガ如クナレドモ、之ガ爲ニ「シンデケート」自身ハ大ニ影響ヲ蒙リ、其更新ノ協議ハ一層ノ困難ヲ加ヘタルモノト云ハザルベカラズ。

當時諸國ノ加里購買者ハ多ク「シンデケート」解散ノ避クベカラザルヲ看取シ、人ヲ伯林ニ派シテ解散ノ曉ニ於ケル廉賣競争ノ實現ヲ待ツノ有様ナリシガ、俄然事態ハ一變シテ稍々好望ノ徵ヲ呈シ各礦山ノ要求モ漸次接近スルノ機運ニ向ヘリ。千九百九年六月二十九日伯林ニ開カレタル最後ノ總會ハ專ラ割當問題ノ協議ニ從事シ、會合ハ即日終了セズシテ翌三十日ニ再開セラレ、其終日ヲ討論ニ費シ尙同夜深更ニ及ビタルモ終ニ一礦山ノ反對ハ成案ノ通過ヲ妨ゲシカバ、比較的意見ノ投合セル四十一ノ礦山ハ七月一日以後ニ於テモ單獨販賣ヲ爲サルコトヲ約シテ一時ノ急ニ備ヘタリ。然ルニ七月一日ニ至リウエステレゲルン、アイニヒカイト竝ニシュミットマン礦山即チアツシエルスレーベン、ゾルステット等ノ代表者ガ前夜散會後單獨販賣ノ契約ヲ締結セシコト知レ渡リシカバ、又復協議ノ續行ニ一頓挫ヲ來シタレドモ幸ニ其餘ノ礦山ハ聯合ノ更新ヲ希望シテ大ニ努ムル所アリ此間獨逸政府モ輸出廉賣ヲ抑制スル策トシテ輸出稅ヲ設クベシト威嚇シ又ウエステレゲルンハ單獨販賣ヲ中止セシヨリ、漸ク七月二十四日ニ至リテシュミットマン礦山及ビアイニヒカイトヲ包擁セザル新「シンデケート」成立シ依然本部ヲスタツスフルトニ置クコト、ナレリ、但シ此「シンデケート」ハ從前ノ聯合ニ比シ其組織甚ダ劣レルモノ、如シ。

アイニヒカイト及ビシュミットマン礦山等ガ米國加里商ト單獨販賣ノ契約ヲ爲シタル額ハ總計七

八百萬弗ニ及ビ、正ニ米國ニ於ケル毎年輸入額ノ約五分ノ四ニ達セリ、而シテ其賣價ハ「シンヂケート」ノ價格ヨリ三割方低廉ニシテ即チ「シンヂケート」賣價ノ一噸三十三弗ナリシヲ二十弗三十仙ノ廉價ヲ以テ供給シタルナリ。サレバ之ガ爲メニ獨逸ノ加里輸出總額ノ五分ノ二ハ全クシユミットマン一派ノ壟斷ニ歸スコト、ナリタル譯ニテ、爾餘ノ礦山ノ打撃甚ダシカリシカバ、「シンヂケート」ハ特ニ委員ヲ米國ニ派シテ、該契約ノ破棄ヲ迫リタレドモ、固ヨリ米國側ノ同意ヲ得ル能ハザリキ。玆ニ於テカ立法的手段ニヨリ加里業ノ基礎ヲ鞏固ニシ且内地消費者ノ利益ヲ保護スルノ必要ヲ唱フルモノ漸ク多ク、普魯西政府モ亦其說ヲ容レテ、同年十二月加里法案ヲ聯邦參議院ニ提出スルニ至レリ。但シ此法案ニテハ輸出税ヲ賦課スルノ議ハ之ヲ撤回シタリ。

是ヨリ先「シンヂケート」ヨリ米國ニ派遣シタル第二ノ委員モ亦不成功ニアリシガ、當時米國ニテハ「ペイン、アルドリッチ關稅法」ヲ發布ニヨリ、新ニ通商條約ヲ締結スルノ必要アリシヲ以テ、獨逸ニ對シテハ加里輸出税ノ賦課ニ關シ豫メ抗議ヲ提起シ來レリ。サレド前述ノ如ク新法案ニテハ全ク輸出税ノ條項ヲ設ケザリシガ故ニ、此點ハ米國政府ノ諒スル所トナリ、翌十年一月獨逸ハ最低稅率ノ恩惠ニ浴スルコト、ナレリ。

七

此項ニテハ論述ノ順序上、加里法案ノ經過竝ニ其内容等ニ就テ一言スベキナレドモ、是等ノ點ハ次項ニ於テ其影響ヲ論ズル際一括シテ説明スルコト、シ、直ニ同法實施ノ結果トシテ起リタル合衆

國トノ折衝問題ヲ敍セントス。卽チ該問題ハ加里法ガ各礦山ニ對シテ割當額ヲ指定シ、之ニ超過スル場合ニ賠償金ヲ徵スルノ制度ヲ採リタルニ由リテ起レリ。元來アツシエルスレーベン、ゾルステット及ビアイニヒカイト等ノ諸礦山ヨリ米國ヘ廉賣セラルベキ加里ハ、新法ニヨル割當額ヲ遙ニ超過セルモノタリシヤ勿論ナレバ、從ツテ其大部分ハ賠償金ヲ課セラル、コト、ナリ、其金額ノミニテモ賣價ニ匹儔セリト云フ。茲ニ於テ乎シユミットマン礦山ハ其過重ニ堪ヘズ、米人ニシテ賠償ヲ負擔スルニ非ザルヨリハ從來ノ供給ヲ續クル能ハザル旨ヲ宣言スルニ至レリ。サレド此ハ米人ノ堪ヘ得ル所ニアラズ何トナレバ其負擔ヲ承諾センカ、「シンデケート」ヨリ購フヨリ却テ高價ヲ支拂フコト、ナリ全ク契約ニ因ル既得ノ利益ヲ滅却スルヲ以テナリ。米國ニ於ケル多クノ學者實際家ハ論ジテ曰ク「賠償金ハ獨逸人ニ取リテハ單ニ內國法ニ違反スルノ制裁ニ過ギザレバ米人ガ之ヲ負擔スルノ必要ハ毫モ存スルモノニアラズ」ト、然レドモ斯ル反對アリシニモ拘ハラズ、實際ニ於テハ痛切ニ加里ヲ要スルノ結果、米人ヲシテ賠償金ヲ支拂フノ餘義ナキニ立至ラシメタリ。

然レドモ米國ニ於ケル肥料製造業者及ビ肥料商等ノ一團ハ加里法ヲ以テ善意ニ締結シタル契約ノ履行ヲ阻止スルモノトナシ、千九百十年ノ秋之ヲ外交問題トシテ國務省ノ援助ヲ求ムルニ至リス。依ツテ國務省ヨリハ一吏員ヲ歐洲ニ派シテ抗議ヲ提出シタルガ、其レト共ニ肥料關係者ノ代表者モ亦獨逸ニ渡航シテ交渉ニ努メタルモ、荏苒二箇月其目的ヲ達スルコト能ハズ、國務吏員ハ本國ニ報告シテ獨逸ハ米國ニ對シテ區別的取扱ヲ爲スノ意アルヤ明カナルガ故ニ、宜シク最高稅率ヲ適用ス

ベシト述ベタリト云フ。然ルニ十二月ニ至リ事件ハ益々重大トナリ、肥料業者、農業者及ビ其他ノ加里消費者ヨリ國務省ニ請願ヲ提出セシコト數ヲ知ラズ、國論モ大ニ沸騰セシカバ、大統領タフトハ内閣會議ヲ開キテ其前後策ヲ議セシモ固ヨリ妙案ナク、サリトテ相手方タル「シンヂケート」ノ態度ハ依然強硬ニシテ讓歩ノ餘地ヲ見出スコト能ハザリシヲ以テ、大統領ハ之ヲ國際問題ト爲スノ不利ナルヲ悟リ、當事者ノ妥協ニ委スルノ方針ヲ採レリ。偶々世論モ折衝ノ困難ナルヲ認メシモノカ漸次鎮靜ニ向フノ傾向ヲ呈セシカバ、大統領ノ方針ハ其功ヲ奏シ、米國側ノ委員（國際農業會社ヲ除ク）ト「シンヂケート」ノ代表者ハハンブルグニ會シテ交渉ヲ重テ、一ツノ協定條件ヲ約スルニ至レリ。此間シユミットマン礦山ノ同意ヲ得ルニ就キ多少ノ支障アリシモ間モナク圓滿ニ解決スルヲ得タリ。

今右ノハンブルグ會議ニ於テ協定シタル條件ノ要旨ヲ示セバ次ノ如シ。

一、加里法ニヨリテ賦課セラル、賠償金ノ負擔ニ關スル一切ノ懸案ヲ撤回スルコト

二、シユミットマン其他箇々ノ礦山ト米人トノ間ニ締結セル契約ヲ「シンヂケート」ニテ引繼グコト

三、向フ五箇年半ハ單獨契約ノ締結以前ニ行ハレタル價格ト同値ニテ總テノ米人ニ供給スルコト

四、シユミットマン礦山タルゾルスステット及ビアツシエルスレーベンノ「シンヂケート」ニ加盟スルコト

斯クテアツシエルスレーベンハ廉賣契約ヲ破棄スル代償トシテ亞米利加農藝化學工業會社及ビ國際農業會社ヨリ百五萬馬克ヲ受ケ、又國際農業會社ヨリ其持株タリシゾルステット株(總株式ノ半數ニ當ル額)ヲ買收セリ。尙從來單獨販賣ヲ爲セル礦山ニハアイニヒカイトアレドモ、同礦山ハバージニア、カロライナ會社ノ支配ニ屬シ、且其產額モ少クシテ該會社ノ全需要サヘ充スコト能ハザリシ程ナレバ「シンデケート」ノ販路ニ大ナル關係ナク、從ツテ獨米ノ折衝問題ニ與ル所ナカリシガバージニア會社ガ其不足額ヲ「シンデケート」ヨリ購入スルノ必要アリシヨリ、アイニヒカイトモ亦加盟スルノ便宜ヲ認メ、從來ノ單獨販賣ニ對スル賠償金トシテ五萬弗ヲ支拂ヒタル後千九百十年十二月聯合ノ一員トナレリ。

八

元來千九百十年ノ加里法ハシユミットマン一派ノ行動ヲ掣肘シテ米國加里購買者ノ利益ヲ阻止セシガ爲ニ制定セラレシモノニアラズ、其根本的目的ハ立法的手段ニヨリテ加里業者ノ間ニ於ケル無謀ノ競争ヲ除カントスルニ在リキ、即チ其政策ハ重商主義的色彩ヲ帶ブル保守的復古的ノモノニ外ナラザルナリ。尤モ其制定ガ米國トノ廉賣契約ニヨリテ大ニ促進セラレタルハ疑フベカラザル事實ナリト雖モ、法律ノ精神ハ區別的取扱ヲ主眼ト爲サズシテ、內國向タルト輸出向タルトヲ問ハズ、割當額ヲ超過セル場合ニ賠償金ヲ課スルノ點ハ毫モ徑庭ナク、偶々米人ガ此規定ニヨリテ少カラザル打撃ヲ蒙ルコト、ナリシヨリ、圖ラズモ米國トノ折衝問題ヲ惹起スルニ至レルナリ。

其ハ兎ニ角該加里法案ハ同年二月四日聯邦參議院ヨリ帝國議會ニ提出シタルモノニシテ、二月十四、十五ノ兩日ニ亘ル討議ノ後二十八名ノ委員ニ附託セラレ、更ニ幾多ノ修正ヲ經タル後帝國議會ニ廻附セラレ、五月二十五日通過シテ成案(Gesetz über den Absatz von Kalisalzen)トナリ二十八日ヨリ實施セラル、コト、ナレリ。新法ハ千九百二十五年十二月三十一日迄加里鹽ノ生産及ビ販賣ヲ拘束スルノ效力ヲ有ス、其規定中ノ重要事項タル割當額ノ決定ハ國立割當事務所(Königliche Verteilungsstelle)ノ權限ニ屬シ、役員ハ所長一名吏員六名ヨリ成リ其内所長及ビ二名ノ吏員ハ聯邦參議院ノ同意ヲ得テ帝國宰相之ヲ任ジ、他ハ礦山主ヨリ選出セラル、事務所ハ總需要高ヲ豫測シテ全產出高ヲ決定シ、之ヲ各礦山ニ割當テ同一礦山ニ對スル内國供給額及ビ輸出額ハ全ク同一ノ歩合トナシ如何ナル礦山ニテモ特ニ多大ナル輸出割當額ヲ獲取スルヲ得ズ、且年々ノ内國向最高價格ト輸出向最低價格トハ法律ノ規定スル所ナリキ。而シテ右ノ割當額ヲ超過セル供給ヲ爲シタルモノハ超過額一「ドツベルセントナー」ニ付キ十馬克乃至十八馬克ノ賠償金ヲ帝國々庫ニ納付セザルベカラズ、此賠償金ハ上述ノ如ク超過ノ場合ニノミ限レドモ、尙各礦山ハ一率ニ毎年產出高一「ドツベルセントナー」ニ對シ六十布ノ賦課金ヲ納入スルヲ要ストセリ。此收入ハ割當事務所ノ經費其他加里法ノ實施ニヨリテ必要トナリタル新費用ノ支辨ニ充テラレ、其上餘剩アラバ販路擴張ノ費ニ供セラル、ノ定メナリキ。企業數ノ増加ヲ防グ爲メ官營礦山以外ノ新礦山ハ事業開始ノ當初三箇年間ハ極メテ小額ノ割當ヲ得ルノミニシテ、漸次年ヲ經ルニ從ヒテ產出高ノ増加ヲ許サレ、六箇年末ニ至リ始メ

テ其生産力ニ相當スル供給ヲ爲スヲ得ルモノトセラレタリ。其他二箇ノ堅坑ヲ有スル礦山ハ第二堅坑ニ對シテ一割ノ附加割當ヲ受クルノ特權アリ、總テ割當額ハ同一團體ニ屬スル精製工場又ハ礦山ノ間ニ於テハ其讓渡自由ナレドモ、唯半額以上ヲ讓渡スル場合ニハ帝國政府ノ認許ヲ得ルヲ要シタリ。

加里法ノ内最近ノ思潮ヲ現ハセル最モ注意スベキ條項ハ社會政策ニ關スルモノ是ナリ。即チ賃銀ヲ引下ゲ或ハ勞働時間ヲ延長(千九百九年當時ノ時間ヨリ)シタル礦山ニ對シテハ、生産力ノ減少セルテフ理由ヲ以テ其割當額ヲ減少ス、但シ其減少ヲ決スル場合ニハ割當事務所ノ役員ノ外、勞働者ノ代表者二名ヲ裁決委員ノ内ニ加フルコト、ナセリ。尙割當額ヲ他ニ讓渡シタル爲メ休業スル礦山又ハ精製工場ハ失職シタル雇傭者ニ對シテ、二十六週間分ノ給料、賃銀ヲ賠償トシテ支拂ハザルベカラザルノ規定アリ。以上ハ加里法ノ大要ナルガ、此法律ノ出デタル爲メ加里業界ノ事情大ニ變化セシヲ以テ千九百九年成立セル「シンデケート」ハ解散シ、新法ニ適當スベキ新「シンデケート」翌年六月七日ニ至リテ創設セラレタリ。

遮莫加里法ハ「カルテル」「トラスト」ニ對スル極メテ嶄新ノ立法ナルガ故ニ、其響影如何ニ關シテハ世人ノ特ニ注目スル所ナリ。予ノ信ズル所ニ據レバ同法ノ制定ガ輸出廉賣ヲ防止スルニ就テ成功シタルハ明瞭ノ事實ナレドモ、提案者ノ希望セル競争ノ排除換言スレバ企業者ノ増加ヲ阻止セントスル目的ハ寧ロ失敗ニ了レリト云フベシ。

今其ニ就テ少シク述ベシニ、加里法ノ實施セラル、ヤ企業ハ却テ發展ノ機運ニ向ヒ、加盟礦山ハ何レモ從前ヨリ大規模ニ資產ヲ分割シ多クノ從屬會社ヲ設ケテ過分ノ割當額ヲ要求セントセリ、何トナレバ二箇以上ノ堅坑ヲ採掘セル場合ニハ法律上大ナル割當額ヲ得ルノ權利アリシト、且新法ノ下ニ於テハ新礦山ハ割當額ヲ減少セラレタルガ、其減少ノ率ハ一ツノ礦山ヨリ多數ノ礦山ニテ分擔スル方利益ナルハ勿論ナレバナリ、サレバ此種ノ實例ハ極メテ多シ、尙新礦山ノ計畫及ビ一旦休止セル舊礦山ノ再興モ亦甚ダ多カリシヨリ、企業數ハ頓ニ激増シ、千九百十一年四月ニハ加盟礦山六十九ニシテ、採掘準備中ノモノ七十九アリシニ、翌年四月ニハ從業中ノ礦山九十七ニ達シ計畫中ニ係ルモノ百十三ノ多キニ及ベリ。バツキスマンノ記ス所ニヨレバ、千九百十三年ノ春ニ於テハ百二十七ノ礦山採掘ニ從事シ、百三十二ガ試掘中ナリシト云フ。是ニ由リテ之ヲ觀ルモ法律ガ豫期ノ效果ヲ奏スル能ハザリシヲ知ルニ足ラム。

加里法ハ右ノ外提案者ノ豫想セザリシ一ツノ結果ヲ齎シタリ、即チ工業集中ノ傾向是ナリ。尤モ其機運ハ加里法ノ制定後始メテ現ハレタルモノニアラズシテ、其淵源ハ千九百四年ノ當時ニ遡ルコトヲ得ベシ。彼ノ官營礦山ガ常ニ割當額ノ讓渡ニ反對シタルモ、全ク集中ノ弊害ヲ怖レタルニ外ナラズ。已ニ千九百五年中或礦山ガ旺シニ株券ノ買收ヲ行ヒタルガ如キ、或ハウエステレゲルンガ中獨信用銀行 (Mitteldeutsche Kreditbank) ノ後援ニヨリテロツスレーベン礦山ノ株式四分ノ三ヲ獲得シタルガ如キハ其著例ニシテ、其他アツシエルスレーベンガゾルステット礦山ノ株式ヲ買收シタル

コトハ前述シタル所ナリ。然レドモ千九百九年迄ハ表面上企業ノ集中合併ヲ企圖スルコト能ハザリシガ、同年以後此機運ハ大ニ勃興シテ株式ノ買收、割當額ノ讓渡等旺ンニ行ハル、ニ至レリ。即チ千九百十年中ヘリゲン (Heringen) 及ビハイリーゲンローダ (Heiligenroda) 兩礦山ノ從屬セルウインターシャルハビスマークシャル礦山ノ株式ヲ過半獲得セルノミナラズ、他ノ五礦山ヲ支配シ更ニアメリー礦山 (Anelle) ノ一從屬會社ヲモ買收シタリ。又獨逸加里業會社トアメリートノ合同モ同年ニ於ケル注目スベキ出來事ナリキ。翌十二年ニハ合併熱益々流行シ殊ニアイニヒカイト、プリント、アダルベルト (Einigkeit-Prinz Adalbert) トブルバツハ、クリューゲルシャル (Burbach-Krüger-shall) トノ合同ハ最モ紛糾セル問題ヲ惹起シタル程ナリキ。要スルニ集中ノ手段ハ大低株式ノ買收ニヨリテ行ハレタルモノニシテ、其目的ハ通常(一)警察條例(二)堅坑主義ノニ倚ル第二堅坑ノ發掘ニ必要ナル資本ヲ節約スルコト、(二)最モ生産條件ノ良好ナル礦山ニ事業ヲ集中セシムル爲メ割當額ヲ讓渡シ又ハ交換スルコト、(三)原動力、交通機關等ノ所有又ハ管理ノ共通、危險ヲ分配スルコト等ノ何レカニ基クモノニ外ナラズ。

以上述べタルガ如ク加里法ハ豫想外ノ影響ヲ及ボシタルノミナラズ、其内容ニモ不備ナル點尠カラザリシカバ、發布後半箇年ヲ經ザルニ之ニ對スル非難ノ聲ハ甚ダ大トナリ、政府モ亦同法ハ商務大臣ブルブリュックノ議會ニ於テ演說シタル如キ結果ヲ齊サバリシコトヲ認ムルニ至レリ。サレバ議會ニ於テモ之ニ關スル議論ハ常ニ多カリシガ終ニ千九百十三年一月ニ及ビ同法改正案ノ提出ヲ看

直ニ通過シテ改正法ハ同年一月十五日以後開始セラルベキ新礦山ニ適用セラル、コトナレリ。然レドモ此修正ハ固ヨリ根本的ノモノニアラザルガ故ニ、遠カラズシテ一大改竄ヲ爲スノ必要アルコトハ世人ノ信ズル所ナリトス。

九

最後ニ予ハ加里「シンデケート」ノ一般經濟上ニ及ボセル影響ヲ述ベテ本論ヲ了ラントス。先ヅ「シンデケート」ノ市價ニ及ボセル影響ヲ看ルニ此點ニ於テハ他ノ多クノ聯合ニ比シ稍々其趣ヲ異ニセリ。即チ極メテ短キ時代ヲ除ケバ輸出價格ハ內國市價ヨリ高位ニ在リキ。是レ全ク生産及販賣ヲ獨占シタルノ結果ニシテ鋼鐵聯合竝ニ石炭聯合ノ如ク「ダンピング」ノ手段ニ倚賴スルノ必要ナカリシガ故ナリ。パツキスマンノ研究ニヨレバ千八百七十九年四礦山ノ間ニ協約成立セシヨリ以降鹽化加里ノ價格ハ殆ンド下落スルコトナク、又砂金齒石ハ千八百八十八年第一回「シンデケート」ノ成立セシ時ヨリ市價ノ低落ヲ看ザリシト云フ。之ニヨルモ生産物ノ價格ノ略ボ一定シ居タルコトヲ知悉スルニ足ルベシ。「シンデケート」ハ又可及的多額ノ利潤ヲ得ンコトヲ努メタリ、從ツテ加里ノ市價ハ放外ニ高價ナリシト云フ能ハザルモ、生産物ニ對スル需要ト生産費、通常企業利潤等ト比較シテ觀察セバ、決シテ廉價ナラザリシト言ハザルベカラズ。殊ニ生産力ノ薄弱ナル礦山ガ千九百六年ニ平均一割三分五厘ノ配當ヲ爲シ得タルコト生産費ガ他ノ礦業ニ比シ賣價ノ小部分ニ過ギザリシコト、シユミットマン一派ガ時價ヨリ三割ノ低價ヲ以テ多量ノ供給契約ヲ結び而カモ尙莫大ノ利益ヲ獲ン

ト圖リシコト等ノ事實ニハ明カニ價格ノ平準以上ナリシヲ語ルモノト云フベキナリ。

生産費ノ減少ニ對シテハ「シンデケート」ハ殆ンド何等ノ效果ヲ貽サバリシガ如シ。唯多少ノ利益アリタリトセバ其ハ無謀ノ競争ニ基ク販賣費ノ節約、共同ノ廣告ニヨル其效力ノ増進等ノ點ナリキ然レドモ是等ハ積極的ニ生産費ヲ縮少セシメタリト稱スルニ得ズ、加之一方ニハ絶エズ企業數ノ激增アリタルヲ以テ各企業ハ充分ニ生産能力ヲ伸長セシムル能ハズシテ互ニ過少ノ生産ヲ爲スノ已ムナキニ至リ、爲メニ生産費ハ却テ競争ノ場合ヨリ高價トナルノ現象ヲ呈シタリ。惟フニ此方面ニ於テハ「シンデケート」ノ存在ハ利害相半スルモノト看ルヲ得ベシ。

既ニ屢々述べタル如ク内國ノ消費者ハ外國ノ購買者ヨリ常ニ利益アル取扱ヲ受ケタリ。是レ官營礦山ガ率先シテ内國向價格ヲ引下グルニ努メタルニ因ルモノニシテ、特ニ最モ大ナル恩典ヲ與ヘラレシハ有力ナル農業者ノ團體ナリキ。サレバ此政策ハ事々ニ加里商ノ反抗ヲ蒙リ非難ノ聲常ニ絶エザリシカバ、遂ニ千九百五年ニ至リ「シンデケート」ハ加里商ニ對シテ多クノ讓歩ヲ爲シタリ。然レドモ未ダ以テ農業組合ト同一ノ地位ニハ置カレザリシガ如シ、千九百九年以後加里商間ニ組合ヲ作ルノ制限撤去セラレシヨリ、加里商人ノ多クハ聯合ヲ組織シ大量ノ購買ニヨリテ。割引ノ利益ヲ得ントスルニ至レリ。要スルニ加里商人ト「シンデケート」トノ關係ハ終始密接ナルヲ得ザリシナリ。

加里「シンデケート」ガ他ノ「カルテル」ト異レル特色ヲ有スル點ハ普魯西政府ガ陰ニ陽ニ聯合ノ行

動ニ干涉シタルコトニシテ、殊ニ其代表委員が大ニ勢力ヲ振ヒタルノ一事ナリ。例ヘバ千八百七十九年、同八十八年、同九十八年及ビ千九百一年ノ協議ニ於テハ官營礦山ガ群議ヲ指導スルノ地位ニ立チ、千九百三年ノ更新ノ際モ普西魯官營礦山先鋒トナリ、又千九百八年ノ混亂時代ニ在リテモ、同政府ハ早クヨリ更新ノ議ヲ纏ムルニ盡シタリ。若シ普國政府ガ是等ノ場合ニ關與セザリシナラバ「シンヂケート」ハ怖ラク四分五裂ノ狀態ニ陥リシナラム。

其他「シンヂケート」ノ功績トシテ看過スベカラザルハ肥料用トシテノ加里ノ使用ヲ普及セシメタルコト是ナリ。然レドモ「シンヂケート」ノ存在ガ果シテ加里工業全體ニ對シテ常ニ有利ナル結果ヲ齎シタルヤ否ヤ、此ハ吾人ノ知ラント欲スル所ナレドモ此問題ハ今後ノ研究ニ俟タザルヲ得ズシテ輕々ニ論斷スルヲ許サズ。唯八十年代ノ自由競爭時代ニ於ケル事業成績ガ必ズシモ千九百年乃至千九百十年ノ狀態ニ劣ルモノニ非ザルノ事實ハ少シク注目ニ價スルノ點ナリト云フベシ。惟フニ「シンヂケート」ニ對シテハ賛否ノ議論一ナラズト雖モ、加里工業全體ガ「シンヂケート」存在ノ結果トシテ常ニ繁榮ヲ持續シ得タルヤ否ヤハ尙疑問トスル所ナリトス。(終)